



麻布幼稚園だより 6月号

令和元年5月31日 港区立麻布幼稚園 園長 藤田 智子

『遊び』の中で育つこと

園長 藤田 智子

新しい環境での生活も、もうすぐ2か月が経とうとしています。毎朝、幼稚園で遊べることを楽しみに元気に登園する子どもたちを迎えることができることを嬉しく感じています。

年少組の子どもたちは、担任の先生との関係を基盤に、自分の気に入った場で好きな遊具を使って遊ぶことを楽しんでいます。時には、同じ遊びの場にいる幼児と触れ合い、声を掛けながら遊ぶ姿も見られるようになってきました。年中組の子どもたちは、一緒に遊びたい友達と、中型積み木を使って、家や乗り物、お店屋さんなどの遊びの場を作ったり、遊びに使いたいものを作って遊んだりすることを楽しんでいます。遊びの場への意識のもち方が、「自分の場」から友達と遊ぶ「自分たちの場」に少しずつ変化してきている感じが感じられます。年長組の子どもたちは、大型積み木や巧技台を使って友達と一緒に遊びの場を作ったり、いろいろな材料を使って身に付ける物を作って遊んだり、友達と誘い合って園庭で体を思い切り動かして遊んだりすることを楽しんでいます。保育室がある増築棟、プレイルームがある既存棟、園庭と、園内の様々な場を使って友達と一緒にだからできるいろいろな遊びをする中で、友達との関わり方や遊び方に少しずつ変化が見られるようになってきました。

このような子どもたちの『遊び』は、幼稚園生活の中心となるものです。遊びの充実が子どもたちのよりよい成長につながっていきます。そこで、幼稚園では、遊びを充実させるために、様々な教育の計画をしています。遊びをより豊かなものにしていくためには、今子どもたちがしている遊びを大切にしながらも、子どもたちの興味に合わせて新たな刺激を加えていくことが必要になります。

時期や発達をとらえ、教師が子どもたちに遊びをより楽しくする投げ掛けをすることで、子どもたちは遊びの中で、考えたり工夫したりする力、構成する力、作る力、友達と相談したり協力したりする力など、様々なことを身に付けていきます。状況に合わせていろいろな援助をしながら、子どもたちの遊びを充実させていきます。

また、子どもたちの興味の幅を広げ、好きなことや得意なことを増やしていくことも個々の成長とともに遊びの充実につながります。それぞれの得意とするところをさらに伸ばし、不得手な部分を補いつつ経験の幅を広げていくのが、学級のみならず集まって行う集団活動や、課題的な活動です。集団活動では、歌やリズム、運動遊び、ゲーム等、みんなでするからこそ楽しいという気持ちが感じられたり、ルールや順番を守って遊ぶことの大切さが感じられたりする活動を取り入れていきます。様々な製作や行事に関する取組みなど、課題的な活動では、発達に即して、取組みの形態を個やグループなど適したものに變化させながら、個々の技能が高められるようにしていきます。

このような様々な経験が、一人ひとりの力になります。そして経験したことを再び遊びに生かしていくことが、幼稚園生活の基本と言われる『遊び』を充実させることにつながります。「やってみたらおもしろかった!」「何度も挑戦したらできた!!」ということを繰り返していくことにより、苦手なことにも頑張ってみようという気持ちが育っていきます。できることが増えると、いろいろなことに自信をもって取り組めるようになっていきます。先生や友達の励ましや刺激を受け、いろいろなことに挑戦できる集団生活の利点を生かし、やらせるのではなく幼児自身のやりたいという気持ちを引き出しながら、意欲的な幼児を育てていきます。

わくわくしながら夢中になって遊ぶ麻布幼稚園の子どもたちの成長を楽しみに、それぞれの子どもたちがもつ可能性を伸ばすことを目指して取り組んでいきます。
6月の麻布幼稚園もどうぞよろしくお願ひいたします。